from 京都

各地へ訪れて学ぶこと

我々の方から各地の観客のもとへ出向こう

植村純子
劇団衛星制作

劇団衛星のレパートリー作品と
NPO法人フリンジシアタープロジェクトの
環境ワークショップを組み合わせてツアー（関西以外を記載）

2007

〈静岡開催〉
『バンドやりたいぜ！』 3.3［土］ スタジオふう
『珠光の庵』 3.4［日］ ラ・セゾン雪月花

〈千葉開催〉
『珠光の庵』 6.30［土］ 市川市文化会館和室
『大陪審』 7.1［日］ 市川市市民会館
／市川子ども文化ステーション例会公演

〈愛知開催〉
『環境警察2207』 9.15［土］―24［祝］ うりんこ劇場

〈喜多方開催〉
『環境警察2207』 10.7［日］―11［木］ 喜多方プラザ小ホール
『珠光の庵』 10.8［祝］―9［火］ 蔵の里和室

〈島根開催〉
『環境警察2207』 11.5［月］―7日［水］ 出雲市立灘分小学校

〈北九州開催〉
『大陪審』 11.10［土］―11［日］ 北九州芸術劇場小劇場
／第15回北九州演劇祭コンペティション部門

〈福岡開催〉
『環境警察2207』 11.12［月］―15［木］ ゆめアール大橋

2008

〈札幌開催〉
『環境警察2208』 1.17［木］―19［土］ ターミナルプラザことにPATOS
『珠光の庵』 1.20［日］ 札幌市西区民センター第4集会室

〈愛媛開催〉
『環境警察2208』 3.28［金］―30［日］
松山市総合コミュニティーセンターコスモシアター

『環境警察2207』

気軽に手軽に観てもらいたい

劇団衛星では、現在、『珠光の庵』『大陪審』等いくつかの作品でもって、各地での上演を行っています。特に、『珠光の庵』は、茶道と演劇を融合した作品で、2004年に初演を行う際、裏千家お家元に「全国47都道府県で上演します」と言ってしまったため、その公約を果たすべく全国制覇を目指して公演を続けています。

もともと、劇団衛星では、本拠地や首都圏などの都市で行う公演にわざわざ足を運んでもらうのではなく、我々の方から各地の観客のもとへ出向こう……というコンセプトで、上演を続けてきました。実際に、一つの作品を、同じ関西圏でも京都・大阪・神戸と3会場で上演するということを、結成当初から行っていました。そうすることで、より気軽に手軽に演劇を観てもらいたいと考えてきました。

公演活動以外では、「演劇で学ぼう！」というワークショップ事業を展開しています。単なる演劇のワークショップではなく、演劇を通じて、環境・防災・防犯・食育などのテーマを体感的に学習できるプログラムです。2003年に、劇団衛星と京都府宇治市立平盛小学校、現・千葉大学教育学部藤川準教授との合同で、演劇的手法を利用した実験的授業を実施して以来、多くのご協力者を得て、これまで関西の小中学校や公募のイベントとして実施してきました。

『珠光の庵』

ワークショップと両輪で回る

2007年度は、この「演劇で学ぼう！」の、中でも環境を学ぶ『環境警察』を中心に、関西だけでなく多くの土地で実施することができました。これらのワークショップの制作を担うNPO法人フリンジシアタープロジェクトが主催となり、独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金、セブン-イレブンみどりの基金等、環境啓発活動へ助成くださる団体からの資金をいただき、それが実現しました。

各地に赴き、子ども達とワークショップをし、そして劇団衛星の公演もその地の方々に観て頂く、あるいは次に公演を行うための準備をしてくる、といった形で、今年度は過ごしました。

公演とワークショップの実施にあたっては、各地の皆様の大きなご尽力をいただきました。それらのご協力がなければ、実施できなかったと思います。今年度に訪れた先は、私がPmP2006で出会った方のいる土地と、代表・蓮行が文化庁の「平成18年度新進芸術家国内研修制度」で研修のため訪問した土地の中から、選ぶことになりました。いろいろなご縁が重なって実現できたと思っています。

各地で公演を行ってみて、またもう一度訪れてみたいし、ほかの多くの土地へも行ってみたいととても思いました。大変なことはいっぱいあって、ツアー自体のしんどさと共に、長らく京都をあけることによる弊害もあるのですが、それでも各地で色々な方と出会える楽しみは大きく、そこから学べるものも数知れずあります。いろいろな土地で劇団衛星の公演を行ったことで、次に関西で上演する時にも必要なことを、学べた気がしています。

来年度以降も、各地への訪問は続く予定です。今度はどこでどんな方々と出会えるか、やはりとても楽しみに思います。

劇団衛星

「小劇場での演劇でしか絶対に表現できない舞台表現」を極めるべく、1995年に設立。京都を拠点に全国で活動し、既存のホールだけでなく寺社仏閣、教会、廃工場等「劇場ではない場所」で公演を数多く行う。近年は、演劇の持つポテンシャルの社会的有用性に着目した、ワークショップ等も多数展開中。

from 福岡

福岡の地域演劇支援拠点 NPO法人FPAPの地域を越えた事業について

ネットワークを核として、九州の地域演劇が活性化していく

高崎大志
NPO法人FPAP事務局長

制作者勉強会

〈福岡開催〉
2006.8―2007.5 各地の制作者を招いての「制作者勉強会」5回開催
2007.1.9［火］―3.13［火］ ぽんプラザホール「火曜劇場ファイナル」で
韓国・仙台・長崎の団体を受け入れ
2007.6―11 小松杏里氏、鴻上尚史氏、扇田昭彦氏による各種ワークショップ
〈長崎開催〉
2006.6.24［土］ 九州演劇人サミット in 長崎
〈宮崎開催〉
2007.6.17［日］ 九州演劇人サミット in 宮崎
〈東京開催〉
2007.3.3［土］トヨタ・アートマネジメントフォーラム2007分科会運営
2007.8 こまばアゴラ劇場、派遣インターンシップ
2007.10 劇作家・演出家のための観劇ディスカッションツアー

低予算でも話題づくりは可能

NPO法人FPAPは、福岡・九州の地域演劇の支援をミッションとして活動しています。私どもの事業の中から、地域を越えた事業について説明いたします。その他の事業については、FPAPサイトをご参照いただけますと幸いです。

「制作者勉強会」は地域の制作者を対象とした勉強会です。他地域の制作者に他地域の状況や制作のノウハウや心構えを話してもらいました。来福公演の事前プロモーションと日程を調整するなどし、低予算で実現しています。

「火曜劇場」は、これまで3年間おこなってきた企画です。福岡で平日公演を促進するため、比較的劇場の空きの多い月曜・火曜の劇場使用料を無料にするという企画です。うれしい誤算なのは、この企画が他地域の劇団の福岡公演のきっかけとなったことです。

「演出家のためのワークショップ」「 鴻上尚史の『こえ』と『からだ』と出会うワークショップ 」「劇評ワークショップ」（主催：大野城市都市施設管理公社、共催：FPAP）は、それぞれ東京から講師を招いての開催となりました。ワークショップだけではなく、その後の懇親会も含めて地域の演劇関係者にとってたいへん良い機会をつくれたのではないかと考えています。

人脈をネットワークに育てる

「九州演劇人サミット」は、九州7県の各地域を代表する表現者によるサミットで、各地域の持ち回り開催を基本としています。FPAPでは開催地域間のつなぎや、各地域での開催のサポートを行っています。この企画を通じ、九州の演劇関係者に、演劇人のネットワークが実感として拡がっていて、主催者として確かな手応えを感じています。このネットワークを核として、九州の地域演劇が活性化していくことを願っています。次回は2008年6月に佐賀での開催が決まっています。

「トヨタ・アートマネジメントフォーラム2007」では、国内各地域のアートマネージャーが、演劇の巡演の可能性について議論しました。地域で活動しながら、こういった発表の場が与えられたことは大きな励みになりました。

「こまばアゴラ劇場、派遣インターンシップ」では、福岡の表現者1名を1ヶ月間派遣し、同劇場の各種の企画やその背景にある精神を学ぶとともに、都内約20本の公演を観劇し、表現者としての能力の向上を図りました。

「劇作家・演出家のための観劇ディスカッションツアー」では、九州の劇作家・演出家4名による観劇とディスカッションを行いました。アゴラの練習場に宿泊し、表現者間の交流も大変活発でした。この企画は札幌のアートNPOコンカリーニョの斎藤ちずさんとの「Meets! 2007」対談から発案された企画で、この対談がなければ実現していない企画です。観劇公演のセレクトは高野しのぶさんのアドバイスをいただきました。

あらたな人との出会いが、私たちに地域演劇支援の多様なあり方を示してくれています。

九州演劇人サミットin宮崎

NPO法人FPAP

地域の演劇人により2003年10月に設立。04年4月、福岡で最も地域劇団の利用が多い小劇場ぽんプラザホールの受付管理業務を開始。06年4月、指定管理者としてぽんプラザホール・ゆめアール大橋（音楽・演劇練習場）の運営を開始。舞台芸術団体54団体が賛助団体となっている。